

北アルプスを愛した 孤高の画家

西澤 明花 (にしざわ めいか) 穂高 矢原出身

〈明花が活躍した時代〉 1883 (明治 16) 年～1939 (昭和 14) 年 享年 56 歳

明治					昭和					
平。	生まれる。本名は彌	穂高矢原の農家に	研成義塾に通う。	卒業後は、敬虔なるキリスト教徒として耕しつつ、画業に精進する。	荻原碌山の感化を受け、画家を志す。	上京して帝展委員の広瀬東畝に入門し、日本画を学ぶ。	アルプスを愛し、山の神秘なまでに深遠で、偉大な姿の表現に努め、上高地をテーマに文展に出品する。	晩年は、本田日生師と親交を深め、法華経に心の安らぎを求め。	燕岳頂上付近で病にかかり、亡くなる。	穂高有明富田の日蓮宗道場妙教寺の合天井絵を作成する。

【西澤明花ってどんな人】～山岳画家 アルプスを愛した人生～

明花が求めたのは・・・

幼い頃の明花は

「ひょうひょうとして、麦わら帽子をかぶり、懐にはスケッチブックを入れ、腰に矢立てをはさむ、聖者のような姿であった」
 美術家：望月宗一



山の雄大さそして神秘さ 永遠なる美

山の美を表現しようと努力し
特に上高地の作品は
数年間をかけて取材し、制作しました。

晩年も山を愛し、
山岳画家として絵を書き続けました。

さらに、絵を描くために燕岳に登り、不運にも山頂近くで病に倒れてしまいます。

明花の残した山の絵たち

【燕岳ノ図】



【槍ヶ岳】



今も残る明花の跡

残念ながら、現在、西澤明花の残された作品は少なく、生家もなくなってしまいました。しかし、生家跡だと思われる穂高矢原には『明花西澤彌平君碑』と書かれた石碑が残されています。石碑は明花の没後、明花を慕う人によって建てられたものです。この文字は書家としても有名な中村不折によって書かれました。



この土地は既に西澤家のものではなく、別の方の所有になっています。生涯家族を持たなかった明花。石碑の管理は土地を買取った方が行っていました。石碑の周りにはきれいな花が植えられています。

富田の妙教寺にあるとされる天井画は、住職が亡くなられた後、松本のあるお寺が管理を引き継いでいますが、見ることはかなわなくなってしまいました。子どもの頃に見たという地元の方のお話では、格子状の天井に花などの多種多様な絵が描かれているそうです。

参考文献：安曇野市 HP「安曇野市ゆかりの先人たち」、南安曇教育 二十二号、市民タイムス (2014 年 5 月 5 日発行)
 インタビュー：土地所有者